

令和6年度  
環境都市常任委員会行政視察報告書

令和6年5月13日（月）～ 14日（火）

岐阜県大垣市・滋賀県米原市

# 視 察 報 告 書

次のとおり実施したので報告します。

1 期 間	令和6年5月13日(月)～ 5月14日(火)		
2 場 所	岐阜県大垣市	滋賀県米原市	
	人口	157,489人	37,215人
	面積	206.57平方メートル	250.39平方メートル
3 調査事項	環境都市行政について ・「まちなかテラス(＃まちテラ)」の実施について	環境都市行政について ・米原市スマート農業について ・まいばら農業塾について	
4 視察内容 所感等	別紙のとおり		
5 視察議員 氏 名	【委員長】山下 佳代 【委員】茅野 理 西垣 一郎 高木 宏樹		
6 資 料	別添		

令和6年5月27日

我孫子市議会議長 様

環境都市常任委員会 委員長 山下 佳代



## 環境都市常任委員会 行政視察報告書

視察地 令和6年5月13日(月) 岐阜県大垣市  
令和6年5月14日(火) 滋賀県米原市

出席者 山下 佳代 委員長、茅野 理 委員、西垣 一郎 委員、  
高木 宏樹 委員

随行者 山本 康樹 環境経済部長、鈴木 捷平 主任

### (1) 岐阜県大垣市

大垣市 市制施行：大正7年

人 口：157,489人、69,420世帯(令和6年3月31日現在)

面 積：206.57平方キロメートル

視察日時：令和6年5月13日(月) 13:30~15:00

視察場所：大垣市役所 7階第2会議室

### 【概要】

大垣市は、岐阜県の濃尾平野北西部に位置する。日本列島の一番「ど真ん中」にある都市としている。岐阜県では県庁所在地の岐阜市に次いで2番目の人口である。

上石津町地域自治区及び墨俣町地域自治区は大垣市中心部とは他自治体を挟んで離れており、飛地となっている。平成の大合併以前の旧大垣市の面積より、飛地として加わった旧上石津町・旧墨俣町の合計面積が大きく上回っている。このような大規模な飛地のある自治体は日本でも数えるほどしかない。

水門川では、たらい舟に乗る事も出来る。商店街に出ると懐かしい雰囲気広がっている。地下水が豊富で自噴している場所が多くあり、地下水は大垣市の上水道の水源となっている。綺麗な水で出来た「水まんじゅう」などが名物となっている。

## 【調査内容】

- ・「まちなかテラス（#まちテラ）」の実施について

大垣市は「居心地がよく歩きたくなるまちなか」を推進している。

「まちなかテラス」とは、「ほこみち制度」に基づき、特定の要件を満たす大垣駅通り等の区域を「歩行者利便増進道路」として指定し、指定区域内の歩道上でのテラス席の設置や物品販売を支援しているほか、駅周辺の広場や公園等でキッチンカーが日常的に出店できるよう支援するなど、まちなかの公共の場所にオープンテラスを設け「居心地がよく歩きたくなるまちなか」をエリア一体的に推進する取り組みである。

賑わいの持続状況は、令和4年度と令和5年度の入り込み客数を比較すると

「かわまちテラス」は21,000人から30,000人へ、「まちなかスクエアガーデン」は25,000人から35,000人へ、どちらも来場者が1.4倍になっている。新たな仕掛けとしては、令和5年9月に、都市再生推進法人として（一社）大垣タウンマネジメントを指定し、この団体が中心となって、大垣駅前の南街区広場にて、キッチンカーなどを入れた「えきまえスクエアパーティー」という賑わいイベントを実施して、「まちなかにぎわい創出」に貢献している。

## 【所感】

360年以上の歴史情緒あふれる城下町の大垣市。大垣城は関ヶ原の戦いで石田三成率いる西軍の本拠地となった場所でした。まちを歩けば、市内各所に湧き水が点在し「水の都」と呼ばれています。令和5年度「かわまち大賞」を受賞し、河川空間を有効活用するイベントなどを定期的を開催しています。

道路、広場、公園の活用をワンストップで市が占有・使用主体になっているので、スピード感をもって対応ができることが日常的になっていると感じました。市が制度改正をキャッチし、コロナ対応に困っていた商店街振興組合連合会に道路空間の活用を提案し、実施体制として市役所都市計画課、市商店街振興組合連合会、（一社）大垣タウンマネジメントが、官民連携で進めていました。その中でも若い方々や、石黒塾の方々が中心になって、企画など積極的に取り組んでいました。

「ものづくり都市」としても、大垣市は市内に様々な産業企業が立地し、上場企業が本社を構えるなど発展しています。

大垣市のような環境ではありませんが、我孫子市でも我孫子駅から手賀沼公園を結ぶ道が「歩きたくなるみち」の賑わいになるよう、官民連携しながら発信力を持って取り組んでいく必要があると感じました。

(2) 滋賀県米原市

視察地 令和6年5月14日(火) 滋賀県米原市  
出席者 山下 佳代 委員長、茅野 理 委員、西垣 一郎 委員、  
高木 宏樹 委員  
随行者 山本 康樹 環境経済部長、鈴木 捷平 主任

米原市 市制施行：平成17年2月14日

人 口：37,215人、14,999世帯(令和6年4月1日現在)

面 積：250.39平方キロメートル

視察日時：令和6年5月14日(火) 10:00~11:30

視察場所：米原市役所 第2委員会室

【概要】

米原市は平成17年2月14日、坂田郡山東町、伊吹町、米原町の3つの町が合併して誕生した。また、同年10月1日に米原市と坂田郡近江町が合併、旧坂田郡が一つとなり新たな「米原市」が誕生した。滋賀県内で唯一、東海道新幹線の駅が設置されていて、関西圏・中京圏ともにアクセスが良く、新幹線では米原駅から京都駅まで19分、新大阪駅まで35分、一方名古屋駅までは27分で到着する。また、東海道本線でも名古屋方面と大阪方面へ、それぞれ直通があるほか、米原駅は北陸本線の終点でもある。自然資源も豊富で、日本百名山に数えられる高山植物の宝庫・伊吹山、ゲンジボタルの生息地として有名な天野川中流域と三島池、滋賀県・岐阜県にのみ生息する魚ハリヨや希少植物バイカモといった、貴重な生物が見られる地蔵川などがあり、市内の甲津原にグランスノー奥伊吹というスキー場がある。「びわ湖の素(もと)」としての雰囲気を作り、人気を集め、暮らすことの豊かさと満足感を追求する中で、住み続けたいまち、訪れてみたいまち、住んでみたいまちとしての信頼と評価を高めている。

## 【調査内容】

### ・米原市スマート農業について

米原市スマート農業推進事業として、担い手の減少や高齢化の進行による労働力不足等の課題を解決するため、地域計画のうち目標地図に位置付けられた者や認定農業者などを対象に、ICT、IoT、AI等の先端技術の活用によるスマート農業技術の導入・普及の推進を図り、担い手の確保・育成および持続的な地域農業の実現を目指すことを目的とした補助事業である。対象者は、

- ① 市が認める認定農業者及び認定新規農業者
- ② 地域計画のうち目標地図に位置付けられた者
- ③ 実質化された人・農地プランに位置付けられた中心経営体
- ④ 集落営農組織

となっていて、市内対象者は162者となっている。

令和5年から開始した事業であるため、各補助対象者における事業効果は、これから追求していく段階だが、作業の省力化・効率化を図る手段としてスマート農業技術を求める声は一気に増えている状況である。

### ・まいばら農業塾について

小さく、無理なく始める新しい農業への入り口として、田舎暮らし・半農半X・就農など、様々な「農ライフ」を実現したい移住者・若者・定年帰農者をターゲットにした事業となっている。

背景には、直売所の生産者の高齢化、米原市産の産品が減少、企業の定年延長により定年帰農の流れが弱まり、田だけでなく、畑も遊休農地化されている。

市内で農業に従事したいと考えている方に「まいばら農業塾」で農業に関する知識、実践、販売の喜びが得られる機会を提供するため、受講料2,000円（令和6年度から5,000円）全10回の講義を開催し、実習と座学を学びます。定員10人の募集だったが、令和5年の塾生は40人の申請があったため17人に定員拡大した。四季を感じ、土を耕し、作物を育て、収穫を喜び、そして販売し喜んでもらえる一連の行程を実感することのできる塾となっている。

## 【所感】

日本最大の湖、琵琶湖と雄大な土地に恵まれた、自然豊かな米原市。農家戸数が1,273戸あり、主要作物が米、麦、大豆、そばが全体の約80%を占めています。高齢化や土地持ち非農家の増加による担い手への負担増加、耕作放棄地の増加など地域農業における課題解決を目的に「スマート農業」や「まいばら農業塾」等は令和5年度から開始した事業のため事業効果はこれからの追求になりますが、農業技術を使いこなす人材の育成や、持続可能な地域農業の実現、更に、若い農業者の確保と育成を考え、従来の考え方にとらわれない柔軟な発想で、多様な農業経営を行い活躍する未来の実現を目指すことが必要だと感じました。我孫子市でも、高齢化による人材不足、担い手不足が課題となっています。様々な対策、企画、アイデアを考え段階的な取り組みの環境整備を進めていくことが必要だと感じました。